

災害避難所での遊びを再現

学園祭・ホームカミングデーにあわせて、災害避難所における子どもの対応について再現いたします。お時間があれば、是非見学ください。来場されたお子様は、本学が研究開発した玩具等で自由に遊べます。

日時：2022 年 11 月 5 日（土）12 時開場（17 時まで）
11 月 6 日（日）10 時開場（16 時まで）

会場：地域連携センター1階 多目的教室

正門入って、右側の
3 階建て施設です。



昨年のデモ会場の様子（2021 年 11 月実施）

避難所に適した玩具
（海外の玩具）、避難
所での掲示、音楽の選
定など、学生の研究成
果を公開しています。

主催

**おもちゃ王国
プロジェクト**

（地域連携センター事業）

避難所対応の新たな視点とは

災害発生後に課題となるのが、被災後の子どもの対応です。これまでの避難所において、「子どもが騒ぐ・子どもが泣く」、「ストレスを抱えている子どもがいる」という報告があり、心のケアが必要であると指摘されています。また、復旧や復興において、子どもの面倒を誰がみるのかという問題も発生していました。

しかし被災後は、子どもに目を向ける余裕がなく、後回しになる傾向があり、子どもの居場所もないという状況でした。そこで、何らかの遊びなどで発散させることが有効な手段となるのですが、音の問題や場の確保も困難な状況など、結局、各自に任せることがほとんどでした。また、近年のウクライナ情勢でも、避難者の多くが子どもであり、その対応に苦慮していることが報道されています。



現在、国立大学法人鳴門教育大学と、(株)おもちゃ王国(岡山県玉野市)、(株)ヴィットハート(岡山県岡山市)の三者で、“遊びと学び”をテーマにした「産学共同研究」を、平成20年度から実施してきました。ここで開発した玩具などが、現在教育現場などで活用されていますが、災害発生時にも有効ではないかという指摘があり、この点に着目して研究を進めてきました。今後も継続予定であり、令和4年度からは、科学研究費助成事業(基盤研究)にも採択されています。

令和4年2月に、これをまとめた「啓発冊子」を刊行しました。ここでは、避難所に適した玩具や遊びを提案したのですが、ここで紹介した玩具は、西日本豪雨で被災した岡山県真備町の避難所に提供されたものもあり、各地の防災訓練にも使われたきたものです。

紹介されている玩具は、誰でも遊べるバリアフリーの玩具である「ブロック玩具(外国製を日本用にカスタマイズしたもの)」に着目したもので、音や誤飲などの問題を軽減させるだけでなく、多くの子どもが長時間遊べるという利点を生かし、コロナ禍での衛生面にも対応できるものです。これを防災備蓄品として、皆様に提案していきたいと思います。(作成部数 1000部)

<http://sakane.g2.xrea.com/mysite1/hinannsyo1.pdf> ネットからも取得できます。